

# 2023「ことばの森教室」第1回優秀作品紹介

## <中学校1年生> 作文課題「中学生になって感じたこと」

### 1-① 「想定外」

中学生は大変だ。入学して1ヶ月、大いに実感している。勉強の量も時間も、とても増えたからだ。

国語の漢字は、画数も増えたとし、バランスのよく書くのが難しく、漢字の練習でノート1ページ埋めるのに時間がかかるようになった。社会は、ただ事柄を暗記するのではなく、地図や資料を見て自分の言葉で説明が出来なければならない。理解しないと分からないのだ。数学は、小学校で習ったことを元に応用していかなければならず、忘れてしまっている計算の式を調べて取り組んでいる。英語は、一つひとつの単語を書いたり、発音を覚えるのがとても大変だ。

初めての中間テスト。「計画を立てて毎日2時間は勉強しましょう」と言われていたが、毎日出来なかった。遊びの誘惑に勝てない自分がいた。テストの結果を見て、改めて全然勉強量が足りなかったと分かった。そして、学習するポイントも違っていたことも分かった。思うようにテスト勉強が進められなかったし、良い結果も出せなかったのが、とにかく悔しい。

6月になると部活動も本格的に始まる。勉強する時間を、自分で作っていかなければならない。今よりも授業に積極的に取り組んでいきたいと思う。そして、1学期の期末テストでは、今回のような悔しい思いをしないように、復習したり、塾や自主学習も嫌がらずに頑張っていこうと思う。やっぱり中学生は大変だ。

### 1-② 「こんなにも楽しいと思うなんて」

私は小学生の時、友人関係で悩み、学校生活が「あまり楽しくないなあ」と感じていました。ですが、中学生になって、学校生活が「楽しい」と思うようになりました。

中学校は、教科担任制で、各教科によって先生が変わります。先生の独自の教え方があり、毎日の授業が楽しみです。授業中に先生達の趣味の話や面白い話など、あまり授業に関係のない余談も全て真剣に聞いてしまうほど面白いです。

中学校に入り、他の学校から来た生徒もいて、同級生が4人増えました。少し増えただけなのに、小学校の時とは違い、とても新鮮な感じですが、一つの小さな話が、みんなの意見でどんどん違う話になり、話が広がっていくことで、会話することが楽しいと思えるようになりました。小学校の時は毎日、一人で過ごすことが多かったけれど、友達が増えて、今ではたくさんの友達に囲まれて、毎日がとても充実しています。

私は、小学校の時に想像することができなかった中学校生活に、とてもびっくりしています。毎日が楽しくワクワクいっぱいなのが、これからも続くよう努力したいと思います。

### 1-③ 「クラスメートと私」

「毎日他の人と一緒に勉強するってどんな感じになるだろう」正直、「イヤだな」と思いながら中学生になりました。私はずっと一人学級だったから、クラスメートが出来て良かった事と良くない事があるなと気づきました。

まず良かった事は、教室でいつも誰かと一緒にいることが出来て淋しくなくなったことです。小学校の時は、他の学年の子は、みんな同じ学年の子と遊んだりしていたのに、私には一人もそういう子がいなか

ったから、本当に辛かったです。今は、毎日一緒に授業を受けたり給食を食べたりする仲間がいて、毎日学校に行くのが楽しくなりました。クラスメートと意見が合わなくて、イライラしたりすることもよくあるけど、やっぱり一人よりずっと良いなと思いました。

クラスメートができてイヤだと思った事は、他の人の意見を聞いて、係や学級委員を決めなきゃいけないことです。一人の時は、自分がやりたいことを先生に言うだけで良かったし、係の仕事も選んですることが出来ました。今は自分から意見をちゃんとと言わないと伝わらないのが苦手だなと思いました。これからは、しっかりと意見を言えるようにしたいと思いました。

毎朝教室に入って、「おはよう」と言い合えるクラスメートがいるのは、やっぱりうれしいです。クラスメートができたから、自分が直さなきゃいけない所も分かって、すごく良かったです。

## 1-④ 「中学生になって実感したこと」

朝ハンガーにかかっている制服を取り、私は制服に腕を通した。入学当初は、制服を着ても中学生という実感が段々わいてきた。

私は、親の仕事の都合で甲府の小学校に通っていたので、知っている人が少なく、入学式の時、不安で仕方なかった。でも通ってみると、話しかけてくれる人もいて、不安という気持ちが少し減った。今では、クラスメート全員の名前も覚えられ、クラスにも段々なじめてきた。今、私がクラスになじめているのは、入学式の時話しかけてくれた子たちのおかげだと思う。感謝しかない。

私は、中学校生活を過ごしていて、驚いたことが2つある。一つ目は、給食の量が多いなと思いつつ、大人に近づいていくということなのかなと思った。二つ目は、部活があることだ。私が通っていた小学校では、クラブはあったが、1学期に1回程度だった。でも中学では、部活が毎日あり、小学校よりも本格的で、下校時間は遅くなるけれど、毎日とても楽しい。

私は今、中学校にも慣れ、入学当時慣れなかった制服を着る時、特別な気持ちだったが、今では特別というわけではない。それは、中学生ということを実感したからだと思う。

## <中学校2年生> 作文課題「出会い」

### 2-① 「先入観を捨てることで得られるもの」

「反復横跳びをしながら将棋を指すようなスポーツ」と例えられることもある卓球。私の中で、地味で根暗なスポーツというイメージしかなかった。しかし、中学で卓球部に入ると、それまでのイメージが払拭され、その奥深さにのめり込んだのだ。

サッカーやテニスと違って、長時間走り回るわけではなく、野球のように遠くまで打ったり、投げたりするわけでもない。正直、卓球のすごさは分かりにくい。台を挟んで向かい合い、プラスチックの白球をラケットで打ち合って、得点を競う。実際にやってみると、単純ではない。とにかく見た目以上に体を激しく動かすと同時に、頭も激しく動かさなくてはならない。相手の球の回転やプレースタイルを計算しながら、瞬時に次の手を考えて打つのだ。球の回転を支配し、制御するラバーなどの用具について、知れば知るほど面白くなる。そして、それらを使いこなすための練習は大変だが、技術が上達し、試合で勝利した時の喜びは、大きい。

私と縁がないと思っていた卓球というスポーツに出会い、読書やゲームをして過ごしていた私の余暇の生活は、卓球の技術向上のための実践練習や、知識向上のための情報収集へと変わった。どんなタイミングで、何がきっかけで、自分を変えてくれるものに出会えるかは分からない。これから先も、先入観を捨て、様々な物を知ろうとすることで、自分自身が成長していけたら良いと思う。

## 2-②

### 「水泳との出会いと想い」

私が今も続けている水泳は、4歳の時に初めて出会った。その当時の私にとっては最悪の出会いだったと思う。夏に水泳教室に入れられた4歳の私は、水が怖く、水の中に入りたくなかったので、トイレにずっと立てこもっていたと親から聞いた。

翌年、引っ越しをした私は、本格的に水泳を始めた。水への恐怖は、年齢が上がったことと、新しいコーチ達の優しさのおかげで徐々に克服していった。水に慣れてくると、進級テストでよく合格するようになり、1年生が修了する頃には全種目を泳げるようになった。テストで合格すると、とても嬉しかった。また、タイム測定で前よりも速くなっていた時は、頑張った甲斐があったな、もっと速くなれるように頑張ろうと思った。

中学生になってから学校が忙しく、通えていない時もある。けれど、自己ベストが更新された時はやっぱり嬉しいし、色んな学校から通ってくるので、たくさんの友達と話して、笑い合えることも幸せだと思う。そして、今まで特技がなかった私が、自信を持って言える特技にもなった。私にとって、メリットのみ水泳に出会わせてくれた親、泳ぎを教えてくれたコーチに感謝しかない。とても楽しく続けている水泳は、できる限り続けたい。また、もし止めてしまっても、将来何か水泳に関われば良かったらいいなと思っている。

## 2-③

### 「その笑顔で」

私はあるアイドルに出会った。今も人気である「すとぷり」というグループの一人、莉犬さんだ。私はこの人の魅力や生き方に強く心をひかれた。

莉犬さんは、歌い手や声優なども手がけており、元気で可愛らしい声が魅力である。この明るい声を聞くと、辛いことも悲しいことも全部吹き飛ばしてくれ、いつでも「大丈夫」と思うことができる。この声には、皆を元気にする魔法がかかっているのではないかと感じられた。

これだけではない。莉犬さんは、内面もとても素敵なのだ。そう思えたのは、ある一本の動画がきっかけだった。「生まれてから」それは、莉犬さんが小さい時から今までの人生を話した動画だった。視聴してみると、それは言い表せないほど辛い内容だった。でも、今まで見てきた莉犬さんを思い返すと、こんな事があっても頑張ってきたと知り、涙がこぼれてしまった。私は、どれほど辛い思いをしても前に進もうとする莉犬さんの強い生き方に、とても感動した。これを見習って、私も色んなことを乗り越えていきたいと思えた。

莉犬さんは、皆の輝く存在であり、私の誇りである。いつも笑顔をくれる、寄り添ってくれる、そして、頑張ることの大切さを教えてくれた莉犬さんに感謝しながら、これからも精一杯応援していきたい。最後に、莉犬さん、いつもありがとう。

## 2-④

### 「人に教えることのむずかしさ」

「よろしくお願ひします。」春、1年生が部活の体験入部にやって来た。私は部の良いところや、バレーの楽しさが伝わるように、どういう風に言ったらいいのか考えていた。しかし、実際に後輩を目の前になると、緊張で言葉が上手く出なく、言いたいことの半分も伝わっていなさそうだった。

今年、私は2年生として、1年生が困っていたらすぐに助けられるようになりたい。これを目標としている。だが、部活の細かい内容や具体的な練習メニューについて質問された時、考えることに必死になり、「えーっと、えーっと」とばかりで、時間がどんどん過ぎていき、結局友人が代わりに答えてくれた。自分に不甲斐なさを感じた。頼りになる先輩になりたい。尊敬される先輩になりたい。私の心に火がついた。

私が中学に入って、バレー部に入部した時、先輩はボール拾いの立ち位置から教えてくれた。ウロウロしていた1年生を、まずコートの外に出し、ボールの飛んできやすいポイントを教えてくれた。その時私は、先輩がしっかり理由を言って、指示してくれたからスムーズに動けた。

今年の新人部員はたったの一人。去年の私達の状況とはかなり違う。1年生バージョンとして、ただ指示するだけでなく、新人部員と同じ立場で、共に行動すれば理解してくれて、その次につながっていけたらいいなと願う。

## <中学校3年生> 作文課題「コミュニティにおける人との関わり」

### 3-① 「伝えること」

自分の思っていることを素直に伝えることができますか。と聞かれたら、「はい。」と答えることができません。色んなことを考えすぎてしまうせいで、思うことがあっても伝えることをしないからです。ですがある日、自分が思うことを伝えることができました。

中学2年生の夏、部活の三年生が大会で準優勝し、県大会に出場することになりました。その日から指導を厳しくすると言われた瞬間、よし頑張ろうと思いました。しかし、少したつと理不尽な嫌味を言われるようになりしました。そこから段々エスカレートしていき、引退後まで続きました。部活を見に来ては、指導をせず私達2年生の嫌味、文句を言って帰るなどがしょっちゅうでした。引退試合も最悪で、思わず態度に出してしまうほどでした。さすがに担任の先生が気づいてくださって、顧問の先生と話をする機会をつくってくれました。初めて先生に全てを伝えた時、涙が止まりませんでした。自分がどれだけためていたかや、分かってもらえることのうれしさ、思いを伝えることの大事さを知った瞬間でした。その後、先輩方を部活に呼ぶことはなくなりました。

このような経験から、人と関わる中で大切にしたいと思うことは、素直に伝えることです。自分が思っているだけでは状況は変わらないことを知り、伝えることで何かを変えることができることも知りました。これからは、自分の思いを伝えて人と向き合いたいです。

### 3-② 「言葉にすれば広がる笑顔」

「ありがとうございます。」さらっといった言葉でも、その一言にはお互いの気持ちをよくする効果があると私は思う。

友達と家族と近所の方々と、学校生活の中でも「ありがとうございます」そんな一言があるだけで、その場の雰囲気も、パッと明るくなる。近所に、いつも話しかけてくれるおばあちゃんがいる。「学校、頑張っておいで。」そんなやさしい一言に私は今まで、「はい」としか返せなかった。こんなにも優しい言葉をかけてくれたのに、「はい」しか言わないのは、お互いにもあまりよい気持ちにはなれないと感じた。感謝の気持ち、うれしい気持ちがあるからこそ、言葉にしてそれを伝えようと思った。次の日の朝、しっかりと気持ちを伝えるにはどうしたらいいのだろうと考えていると、おばあちゃんはいつものように優しく「学校、頑張っておいで。」と声をかけてくれた。とっさに、「ありがとうございます。行ってきます。」と声にしていた。おばあちゃんの顔は、いつもに増して優しく落ち着くような笑顔を見せてくれた。私も自然と笑顔になった。

感謝の気持ち、うれしい気持ちを伝えるには、言葉にして伝えることが大切だ。私もこのような体験があったからこそ、「ありがとうございます。」にはお互いの気持ちをよくする言葉だと、改めて感じる事ができた。

友達から「君は男女関係なく誰とでも話せるんだね。」と言われた。私の中では、それは普通のこと、特に意識している訳ではない。今までの体験を思い出していくと、何故そんなことができるか分かった。

まずは、自然体でいること。つまり、ありのままの自分で人と接するということだ。私は、気張らず、人で態度を変えない、広い心を持っていると思う。そんな自分の素直さを出すことで、相手も相手なりの自分を出してくれて、お互い気楽に接することができると思う。また、相手の話に共感することで、誰とも平等に関われると思う。相手と気持ちを合わせ、嬉しい、楽しいという喜びを感じ合うのだ。学校では、よく友達と休み時間に給食の話をする。今日の献立は豪華だとか、この組み合わせは最高だとか。その時、相手が「いいよね」と思っていることに対して、自分も「いいよね」と共感することで、気持ちを共有できて嬉しくなるのだ。この瞬間、人と繋がっていることを強く感じられる。

人との関わりを持つ時に、特に大切にしていることは、やはり自然体でいることだ。互いに、嬉しいや楽しいという気持ちを共感することで、友情ができると思う。初対面の人と関わりを持つのは、怖くて緊張するだろう。おそらく相手も同じ気持ちなのかも知れない。しかし、思い切ってありのままの自分を出せば、その人ともきっと仲良くなれるだろうと信じている。